

## 平成28年度 公益社団法人瀬戸内海環境保全協会 事業報告書

### 今年度事業推進上の基本方針

「瀬戸内海環境保全協会」の設立趣意を踏まえつつ、次の方針のもと事業を展開する。

「瀬戸内海の環境保全・創造」に関する活動拠点、瀬戸内海の各種対策のコーディネータとして、

(1)瀬戸内海の環境活動、環境学習に関する指導者のネットワーク構築、教材等作成提供

(2)瀬戸内海の栄養塩類や生物多様性等新たな課題に対する調査研究

(3)瀬戸内海に関する各種情報、データの収集・発信

の中心的な役割を目指して事業を進めることとする。

また、事業実施にあたっては、瀬戸内海に関係する府県市、漁業団体、環境衛生団体の緊密な連携のもと、新たな水環境の考え方の一つである「(森・川・海の)流域管理」や「里海」をキーワードとしながら、環境省や瀬戸内海環境保全知事・市長会議、瀬戸内海研究会議との連携をさらに密にし、豊かで美しい瀬戸内海を後世に継承していくための事業展開を図っていく。

## I 事業

### 1. 瀬戸内海の環境保全・創造に関する普及啓発、活動支援及び情報収集・提供

#### (1) 普及啓発・活動支援

##### ①瀬戸内海環境保全月間事業の展開(昭和52年度～)

[1,887千円]

瀬戸内海の環境保全意識の高揚を図るため、次の事業を実施した。

#### ア、平成28年度瀬戸内海環境保全月間(期間：平成28年6月1日～30日)ポスターの配布・掲示

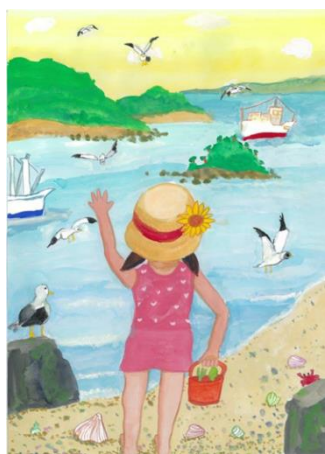
平成27年度に公募し、選定された最優秀作品を平成28年度瀬戸内海環境保全月間ポスターとして作成、関係機関に配布し、瀬戸内海環境保全月間に広く掲示した。

・配布枚数：5,000枚

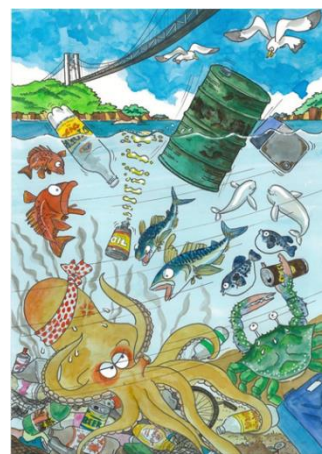
[平成28年度瀬戸内海環境保全月間ポスター最優秀作品・優秀作品]



最優秀賞 尾関 裕美  
(愛知県名古屋市)



優秀賞 高石 結菜(小学生)  
(愛媛県伊予郡)



優秀賞 中村 稔  
(佐賀県三養基郡)

## イ、瀬戸内海環境保全月間ポスター原画展の実施（平成22年度～）

瀬戸内海環境保全知事・市長会議総会の瀬戸内海環境保全セミナーに合わせて、協会が保有している瀬戸内海環境保全月間ポスター入選作品の原画を展示し、環境保全の啓発を図った。

- ・日時：平成28年7月15日（金）
- ・場所：ホテルグランヴィア和歌山



瀬戸内海環境保全セミナー



瀬戸内海環境保全月間ポスター原画展

## ウ、平成29年度瀬戸内海環境保全月間ポスター募集・選定（平成11年度～）

平成29年度瀬戸内海環境保全月間に向け、環境省と共催で、ポスターの原画を募集し、入選作品を選定した。

- ・作品募集期間：平成28年7月4日（月）～11月30日（水）
- ・ポスター選定委員会の開催：平成29年3月7日（火）
- ・ポスター応募数：一般部門 141件 こども部門 129件 総数 270件

## ②瀬戸内海環境保全への支援

[4,219千円]

### ア、「里海づくり」支援事業の展開（平成23年度～）

地域住民等に対する瀬戸内海の環境保全意識の啓発、理解及び活動参加の推進を図るため、会員府県市が実施する人と自然が共生する「里海づくり」に係る環境学習事業や環境ボランティア人材育成事業に対し、資材（水生生物下敷、水質パックテスト等）を提供し支援を行った。

- 支援対象事業
- ・自然観察会や子どもたちを対象とした体験的学習
  - ・環境ボランティアの人材育成事業

支援府県市：12府県15市

事業実施期間：平成28年7月1日（金）～平成29年1月31日（火）



香川県「水生生物調査」



倉敷市「海辺の教室」

#### イ、環境保全事業への支援（昭和52年度～）

環境衛生団体や漁業団体が取り組んでいる浜辺の清掃や環境美化等、各種環境保全・創造活動事業に対し、その活動費用の一部を助成した。

助成団体数：6 環境衛生団体、8 漁業団体

事業実施期間 平成28年4月1日（金）～平成29年3月31日（金）

#### ウ、「瀬戸内オリーブ基金」による瀬戸内海地域の緑化の推進（平成24年度～）

有害産業廃棄物の不法投棄事件「豊島事件」をきっかけに、建築家安藤忠雄氏と、豊島事件弁護団長の中坊公平氏らが呼びかけ、植樹等の緑化活動により、瀬戸内海の自然環境を保全していくことを目的とした「瀬戸内オリーブ基金」を活用し、正会員が瀬戸内海周辺一帯及び流域で行う植樹・育苗等の自然再生、地域再生にかかる緑化事業に協力した。

・平成28年度助成：5団体 助成額 2,289,827円

・平成29年度助成：3団体 助成額 2,489,088円（\*条件付き1団体）

### ③環境保全研修の実施

[5,909千円]

#### ア、瀬戸内海環境保全トレーニングプログラム研修の実施（平成10年度～）

瀬戸内海を豊かで美しい海にするためには、様々な環境技術の継承や知識が求められており、新たに水環境保全業務に従事する職員を対象に、瀬戸内法や環境技術等、瀬戸内海の新たな取り組みについて、研修を行った。

・日時：平成28年10月24日（月）～26日（水）

・場所：香川県 高松センタービル、直島

・参加人数：27名（11府県13市2団体）

・講義：大きく変わる瀬戸内海の環境管理ーパイオニアとしての新たな挑戦ー

講師 広島大学 名誉教授 松田 治

瀬戸内海の環境保全の動向

講師 環境省水・大気環境局閉鎖性海域対策室 室長補佐 坂口 隆

瀬戸内海の藻場・干潟の役割と保全

講師 香川大学農学部 教授 多田邦尚

瀬戸内海の栄養塩の適切な管理

講師 京都大学 名誉教授 藤原建紀



## 香川県における環境への取り組みについて

講師 香川県環境森林部環境管理課

### ・現地研修

香川県直島環境センター 「豊島産業廃棄物等中間処理施設」

三菱マテリアル直島製錬所「有価金属リサイクル施設」

瀬戸内芸術祭

### ・班別討議及び全体討議



基調講演



全体討議

## イ、瀬戸内海的环境保全に関する各団体合同研修会の開催（昭和53年度～）

当協会設立の原動力の一つである環境衛生団体と連携を継続・維持していくため、同団体の合同研修会を共同で開催した。

- ・主催：瀬戸内海環境保全地区組織会議、岡山県環境衛生協会、  
（公社）瀬戸内海環境保全協会
- ・後援：岡山県
- ・日時：平成28年11月25日（金）
- ・場所：岡山市 ピュアリティまきび
- ・参加人数：97名
- ・講演：「海ごみがなくなるとき～山、川、海そして人をつないで～」  
（特非）グリーンパートナーおかやま 理事長 藤原瑠美子
- ・体験交流・意見交流：各府縣市連合会の実践活動報告
  - 1) 広島県 高島学区スクールキャラバン海辺教室  
福山市高島学区公衆衛生推進委員会
  - 2) 福岡県 人と海をつなぐ浜辺の環境づくり  
箕島校区明るく美しい町づくり運動推進協議会
  - 3) 北九州市 天籟寺川を美しくするための地域の取り組み  
天籟寺川を美しくする会



講演（特非）グリーンパートナーおかやま  
藤原理事長



体験交流・意見交流

#### ウ、瀬戸内海の環境保全に関する賛助会員等研修会の開催(平成6年度～)

当協会の賛助会員であり、ともに瀬戸内海の環境保全に取り組んでいる企業間のネットワークづくりの場として、企業ニーズを踏まえながら研修会を実施した。

研修内容は、前回の研修会参加者へのアンケート結果を踏まえ、賛助会員部会で検討を行い、テーマを決定した。

##### 1) 第1回研修会

テーマ：資源の再利用（家電リサイクル）による循環型社会の実現

- ・日時：平成28年10月27日（木）
- ・講義・見学：パナソニックエコテクノロジーセンター(PETEC)
- ・参加人数：29名（うち自治体より7市参加）

##### 2) 第2回研修会（座学）

テーマ：豊かな海づくりの取組について

- ・日時：平成29年2月22日（水）
- ・場所：兵庫県民会館
- ・参加人数：86名（うち自治体より7府県9市参加）
- ・基調講演：大きく変わる瀬戸内海の環境管理－国・府県レベルから現場まで－  
講師 広島大学 名誉教授 松田 治
- ・講演：瀬戸内海の環境保全に関する兵庫県計画及び第8次水質総量削減計画について

講師 兵庫県農政環境部環境管理局水大気課 課長 正賀 充  
豊かな海づくりに向けた取組について

講師 兵庫県立農林水産技術総合センター 技術参与 反田 實  
下水処理施設の栄養塩管理運転の取組について  
(加古川下流浄化センターでの取組について)

講師 (公財) 兵庫県まちづくり技術センター 加古川流域下水道管理事務所 所長 寺西章浩

(明石市二見浄化センターでの取組について)

講師 明石市下水道部下水道施設課 施設管理担当課長 村上修治

**④環境保全事業への参加・協力** [2,064千円]

**ア、環境イベントへの参加・協力**

他団体が主催する環境イベントにおいてパネル（里海・瀬戸内海フォトコンテスト入選作品等）の展示、資料、啓発物品の配布等を行い、瀬戸内海の環境保全の普及・広報に努めた。

- ・ひょうごエコフェスティバル2016（平成28年10月29日（土）～30日（日）丹波市）に  
出展し、環境クイズ等による広報活動を行った。

配布数：観察用ルーペ 200個

**イ、会員等主催事業への支援**

会員及び関係機関が主催する各種環境保全事業へのパネルの貸出などの支援を行った。

貸出実績：（公財）国際エメックスセンター

エメックス国際セミナー 平成29年2月28日（火）

**ウ、環境NGO・NPOとの連携・支援**

瀬戸内海の環境保全等に努める環境NGO・NPOとの連携や支援を行った。

- ・「ほっといたらあかんやん！第13回大阪湾フォーラム」（平成29年3月4日（土））の  
後援

**⑤K J B瀬戸内基金の管理・運営（平成19年度～）** [3,294千円]

瀬戸内海の環境保全等に取り組む環境NGO・NPOを支援するため、フィリップ モリス ジャパン株式会社が提唱する「keep Japan beautiful～日本をエコひいきしよう～」の一環として、瀬戸内海地域における環境美化・保全活動に取り組む市民団体の活動や事業の助成・支援を行うため設立した「K J B（keep Japan beautiful）瀬戸内基金」の管理・運營業務を行った。

なお、平成19年にK J B瀬戸内基金を設立し、10年の節目を迎えたことから、今年度で助成を終了した。

- ・平成28年度K J B瀬戸内基金助成

募集期間：平成28年2月15日（月）～3月4日（金）

応募総数：35団体

助成総数：5団体 助成総額：2,000千円

**⑥海文化事業の推進（平成24年度～）** [2,422千円]

瀬戸内海がもつ自然や歴史、食文化等多様な地域資源を背景に、瀬戸内海で結ばれている地域住民の生活・文化の交流を通じて、環境保全への一層の意識醸成を図り、「豊かで美しい瀬戸内海」を実現するため、海文化委員会を開催し鷺尾圭司（水産大学校代表）など有識者の意見を聞きな

から検討を進めた。

平成 28 年度は「瀬戸内の石の文化、塩の文化」に関する情報収集・整理を行った。

## ⑦瀬戸内海環境保全に関する関係府県市・団体との連携

[4,595千円]

### ア、瀬戸内海再生に向けた取組みの推進

瀬戸内海の生物多様性の確保、水産資源の回復、美しい自然とふれあう機会の提供等、豊かで美しい瀬戸内海を取り戻すための施策が総合的、計画的に推進されるよう、平成16年から瀬戸内海環境保全知事・市長会議等と連携して、種々の取組みを進めている。

### イ、（公社）瀬戸内海環境保全協会設立40周年記念事業

公益社団法人瀬戸内海環境保全協会は、昭和 51（1976）年 12 月 22 日に設立総会が開かれ、翌年の同 52（1977）年 1 月 25 日に内閣総理大臣の設立許可を受け、同 1 月 27 日、社団法人瀬戸内海環境保全協会として発足した。

その後、平成 25 年 4 月 1 日に公益法人化し、現在の名称となり現在に至っているが、28 年度が法人としての発足 40 周年を迎えることから、設立 40 周年記念事業を行った。

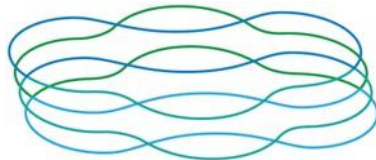
#### ・ 公益社団法人瀬戸内海環境保全協会ロゴマーク募集

設立40周年を迎え、これからの当協会のイメージを分かりやすく表したロゴマークを募集した。

作品募集期間：平成28年9月6日（火）～10月7日（金）

選定委員会の開催：平成28年10月12日（水）

応募数：182作品



瀬戸内海環境保全協会

最優秀賞 神保 米雄  
(千葉県松戸市)



瀬戸内  
環境保全

優秀賞 石渡 歩  
(神奈川県横浜市)



公益社団法人  
瀬戸内海環境保全協会

優秀賞 星野 鉄兵  
(東京都品川区)

#### ・ 設立40周年記念式典

日時：平成28年11月2日（水）

場所：神戸メリケンパークオリエンタルホテル

参加人数：116名

ロゴマーク公募受賞者表彰：最優秀賞、優秀賞

講演：瀬戸内海と里海資本論

講師 NHKエンタープライズ エグゼクティブ・プロデューサー  
井上 恭介

瀬戸内海の家文化

講師 (国研) 水産研究・教育機構 理事 水産大学校代表  
鷺尾 圭司

神戸港沖クルーズ

#### ウ、国に対する提案(昭和52年度～)

栄養塩の適正管理や藻場、干潟の保全等、単独の府県だけでは取り組めない瀬戸内海の広域的な課題の解決に向けた調査・研究に取り組むため、国に提案を行った。

- ・提案日：平成28年6月28日（火）～7月28日（木）
- ・提案先：環境省(24人)、水産庁(12人)、財務省(22人)、国土交通省(28人) 計86人

##### (提案事項)

##### ・施策の推進

- (1)瀬戸内海的环境保全・再生・創出のための普及活動、環境教育・環境学習事業及び参加型環境保全活動事業並びに新たな視点での水環境を基調とした海文化を通じた環境啓発事業の推進
- (2)瀬戸内海特有の景観を活用し、エコツーリズム推進法に基づいたエコツーリズムを行うことにより、島しょ部等地域が持つ特有の魅力の再評価及び地域の活性化を図る事業の推進
- (3)瀬戸内海的环境データの収集とデータベース機能の充実  
(特に生物、藻場、干潟等の自然環境情報)
- (4)漁業が持続可能な豊かな海づくりのための適切な栄養塩濃度レベルの維持及び円滑な物質循環の確保に向けた湾・灘ごと等の地域の実情に応じたきめ細やかな水質管理や順応的な取組の推進
- (5)底質並びに湾奥部の環境改善の推進
- (6)藻場、干潟、浅場、その他の沿岸域の良好な環境の保全・再生・創出の推進
- (7)赤潮発生メカニズムの解明と防止対策の推進
- (8)海ごみの処理対策の推進
- (9)水質浄化に寄与する二枚貝等を捕食する有害生物対策の推進

##### ・調査研究並びに実践活動

- (10)瀬戸内海の沿岸域での良好な環境の保全、失われた環境の修復・創造に関する調査研究
- (11)生物多様性の確保及び水産資源の回復、美しい自然とふれあう機会の提供等瀬戸内海を里海として再生するための調査研究
- (12)瀬戸内海における栄養塩類の適正な管理や藻場・干潟が水環境に及ぼす役割の解明など、物質循環の健全化を通じた良好な水環境の実現に向けた調査研究
- (13)瀬戸内海の内海及び水環境保全並びに浮遊・漂着・海底ごみ等に関する調査研究
- (14)瀬戸内海における有害化学物質等による環境影響に関する調査研究
- (15)瀬戸内海における外海からの環境影響に関する調査研究
- (16)気候変動(海水温上昇等)に伴う生態系や水産業に与える影響の調査研究



- (17)外来種侵入に伴う生物多様性や水産業等に与える影響の調査研究
- (18)栄養塩類や土砂の供給にかかる河川・森林機能に関する調査研究
- (19)瀬戸内海環境情報基本調査の継続実施
- (20)瀬戸内海の自然景観と文化的景観の保全と再生に向けた取組（自然、文化、歴史等の既存の情報収集とその広報活動を含む）
- (21)地域で活動している NPO 団体との連携による地域づくり活動の実施体制の構築（指導者やボランティアの育成）
- (22)瀬戸内海研究会議の調査研究及び普及・教育活動に対する支援

## エ、賛助会員の加入促進

協会の目的に賛同する企業等の賛助会員加入の促進を図るため、研修会の充実やセミナー等での広報に努めた。

## オ、瀬戸内海研究会議に対する支援・協力

特定非営利活動法人瀬戸内海研究会議（平成25年4月1日設立）の事務局を担うとともに、研究会議が行う事業の運営推進について支援・協力を行った。

- ・瀬戸内海研究フォーラムin愛媛（平成28年9月8～9日（木～金））への後援、開催協力
- ・瀬戸内海の環境保全・創造研究ワークショップ（平成28年12月2日（金））への後援、開催協力

## カ、国際的な活動への協力

（公財）国際エメックスセンターが行う国際的な行事について、協力を行った。

- ・エメックス国際セミナー「世界の閉鎖性海域～沿岸域管理の新たな展開～」（平成29年2月28日（火））への後援

## (2) 情報共有・発信事業

瀬戸内海の環境保全にかかる現状や、瀬戸内海のあり方、行政施策に関する情報を収集し、今後の施策や事業の連携、協調を図るため、府県市、漁業団体、環境衛生団体等の会員をはじめ、関係する市民等に広く情報を発信し共有した。

### ①総合誌「瀬戸内海」の発行・配布（平成6年度～）

[5,385千円]

瀬戸内海の自然・社会・人文科学の総合誌「瀬戸内海」を発行・配布するとともに協会ホームページに掲載した。

- ・発行回数：年2回

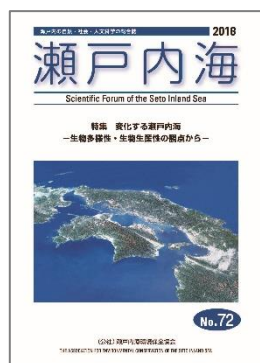
第72号：平成28年10月発行 900部、CD-ROM

特集 変化する瀬戸内海－生物多様性・生物生産性の観点から－

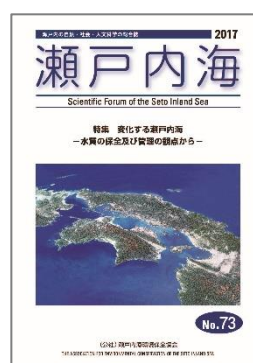
第73号：平成29年3月発行 900部、CD-ROM

特集 変化する瀬戸内海－水質の保全及び管理の観点から－

- ・無償配布：会員団体（冊子及びCD-ROM）
- ・有償配布：年間購読者等（冊子のみ） 年間購読料 2,500円（税込み）



「瀬戸内海」第72号



「瀬戸内海」第73号

②資料集「瀬戸内海の環境保全－平成28年度版－」の発行・配布(昭和53年度～) [4,469千円]

瀬戸内海に関連する各種資料をとりまとめ、資料集「瀬戸内海の環境保全－平成28年度版－」として発行・配布した。

平成29年3月発行 冊子 750部、CD-ROM 130枚

- ・無償配布：会員団体（冊子及びCD-ROM）
- ・有償配布：会員以外（冊子のみ）

③協会ホームページによる情報の発信(平成10年度～) [1,631千円]

瀬戸内海の環境保全に関する環境学習情報等を広く一般の方も容易に入手できるとともに、環境保全に取り組むNPOのネットワーク化にも役立つよう情報を発信した。

④メールマガジンによる情報の発信(平成23年度～)

会員府県市、漁業団体、環境衛生団体及び協会が有するトピックスを収集し、情報共有や施策立案等だけでなく、会員を通じた普及啓発に資する情報発信を毎月1回(15日)行った。

2. 瀬戸内海の環境保全・創造に関する調査・研究事業

(1) 調査・研究事業

豊かで美しい瀬戸内海実現に資する調査・研究事業について、環境省等からの受託など外部資金の獲得を目指し活動を行い、次の事業をいであ㈱と共同で受託した。

①平成28年度瀬戸内海環境情報基本調査及び豊かな海の確保に向けた方策検討業務(平成27年度～環境省委託) [4,320千円]

瀬戸内海をはじめとする閉鎖性海域では、水質汚濁防止法や瀬戸内海環境保全特別措置法による汚濁負荷量の削減等の取組が進められた結果、その水質は全体として改善傾向にある。一方で、赤潮や貧酸素水塊の発生といった問題も依然として確認されており、また、「豊かな海」の観点から、生物多様性・生物生産性の確保や栄養塩類の適切な管理等の重要性が指摘されるなど、新たな課題への対応が求められている。

そのため、閉鎖性海域をめぐる新たな課題に対応するため、下記の項目を調査、検討する。なお、底質や底生生物の実態把握調査については、平成17年度まで実施された瀬戸内海環境情報基本調査と同じ内容で行われるもので、今年度は備後灘、燧灘、安芸灘、広島湾、伊予灘を対象として調査

する。他の海域の調査は平成29年度以降継続して行われる予定である。

<調査検討項目>

- ア 底質調査及び底生生物調査
- イ 栄養塩類の底質からの溶出量の推定
- ウ 湾・灘ごとの水環境の変化状況の分析
- エ 湾・灘ごとの実情に応じた、きれいで豊かな海の確保に向けた方策に関する検討

本業務においては下記の委員で構成される有識者検討会が設置されている。

(委員長 広島大学教授 西嶋渉、委員 西田修三他6名、関係機関として各府県の環境担当 13名、水産庁)

第1回有識者検討会(平成28年6月29日(水) 神戸市教育会館)

①有識者検討会の進め方(委員長に西嶋渉広島大学教授を選任)、②湾・灘ごとの変化状況に関する総合分析、③湾・灘ごとの変化状況に関する詳細分析、④湾・灘ごとの実情に応じた、きれいで豊かな海の確保に向けた方策に関する検討、⑤底質調査及び底生生物調査の実施計画について審議いただいた。

第2回有識者検討会(平成28年12月9日(金) 広島県医師会館)

①本検討会における成果の活用、②底質調査及び底生生物調査の結果、③栄養塩類の底質からの溶出量の推定、④湾・灘ごとの変化状況に関する総合分析、⑤湾・灘ごとの変化状況に関する詳細分析、⑥湾・灘ごとの実情に応じた、きれいで豊かな海の確保に向けた方策に関する検討、⑦瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査(東部海域)の結果について審議いただいた。

第3回有識者検討会(平成29年2月15日(水) 神戸市教育会館)

①底質調査及び底生生物調査の結果、②栄養塩類の底質からの溶出量の推定、③湾・灘ごとの変化状況に関する総合分析、④湾・灘ごとの変化状況に関する詳細分析結果、⑤きれいで豊かな海の確保に向けた取組の実施状況、⑥28年度報告書(案)、⑦29年度の検討内容(案)について審議いただいた。

## II 一般事項

### 1. 会議等の開催

#### (1) 総会

①定時総会(平成28年5月27日(金) ラッセホール)

- ・平成27年度事業報告及び決算
- ・会費の額
- ・国に対する提案
- ・平成28年度事業計画及び収支予算
- ・特別講演会

沿岸海域の生態系サービスの経済評価

講師 立命館大学特任教授・東京大学客員教授 仲上健一

## (2) 理事会

総会付議事項及び業務の執行に関する事項を協議する。

### ①第8回理事会（平成28年5月12日（木） ラッセホール）

- ・正会員の入会承認（中核市：呉市）
- ・専門委員会委員の委嘱
- ・定時総会の招集
- ・定時総会付議事項

### ②第9回理事会（平成29年3月14日（火） 神戸市勤労会館）

- ・平成28年度収支予算の変更
- ・平成29年度事業計画及び収支予算
- ・定款の一部変更

## (3) 専門委員会等

### ①企画委員会

協会の事業推進のための検討、今後の活動・費用負担の見直しの検討及び平成29年度事業の検討・企画を行った。

#### 第7回企画委員会（平成28年6月24日（金） 神戸市教育会館）

- ・今後の活動・費用負担の見直しについて

#### 第8回企画委員会（平成28年10月3日（月） 神戸市教育会館）

- ・今後の活動・費用負担の見直しについて

#### 第9回企画委員会（平成29年3月6日（月） 神戸市勤労会館）

- ・平成28年度事業実施状況について
- ・平成29年度事業計画案及び収支予算案
- ・定款の一部変更

### ②編集委員会

協会が発行する「瀬戸内海」の編集方針を定めるとともに、特集テーマや掲載内容及び執筆者等の検討を行った。

#### 第1回編集委員会（平成28年9月21日（水） 三宮研修センター）

- ・「瀬戸内海」72号の編集状況について
- ・「瀬戸内海」73号の原稿収集について
- ・「瀬戸内海」74号の特集について

#### 第2回編集委員会（平成29年2月9日（木） 兵庫県民会館）

- ・「瀬戸内海」73号の編集状況について
- ・「瀬戸内海」74号の原稿収集について
- ・「瀬戸内海」74号以降の編集方針について

### ③海文化委員会

海文化事業の推進を図るため、情報の活用方策の検討を行った。

第1回海文化委員会（平成28年9月13日（火） 兵庫県民会館）

- ・平成27年度「瀬戸内における水環境を基調とする海文化（伝統行事）」の作成報告について
- ・平成28年度「瀬戸内における水環境を基調とする海文化（石の文化・塩の文化）」の作成計画と29年度以降の検討項目について

第2回海文化委員会（平成29年3月22日（水） 兵庫県民会館）

- ・平成28年度「瀬戸内における水環境を基調とする海文化（瀬戸内の石の文化・塩の文化）」の作成報告について
- ・平成29年度以降の「瀬戸内における水環境を基調とする海文化」の作成計画について

#### ④賛助会員部会

協会活動に対する賛助会員の積極的な参画と賛助会員に係る事業の検討・企画を行った。

第1回賛助会員部会（平成28年8月3日（水） 兵庫県民会館）

- ・平成28年度事業等について

部会委員：関西電力(株)、川崎重工業(株)、(株)神戸製鋼所、マツダ(株)、四国電力(株)  
いであ(株)、(株)大塚製薬工場、山口県瀬戸内海環境保全協会

#### (4) 参事・事務局長並びに担当課長会議

会員に対する協会事業の理解と周知を図るとともに、事業活性化のため、会員相互の情報交換等を行った。

（平成29年3月15日（水） ラッセホール）

- ・平成28年度事業実施状況及び収支補正予算
- ・平成29年度事業計画及び収支予算
- ・平成29年度国への提案事項案
- ・定款の一部変更 等

## 2. 専門委員の委嘱

企画委員、編集委員、海文化委員を委嘱した。

### (1) 企画委員（13名）

片山雅英	大阪府環境農林水産部環境管理室環境保全課長
正賀 充	兵庫県農政環境部環境管理局水大気課長
重野昭彦	広島県環境県民局環境保全課長
壺井明彦	香川県環境森林部環境管理課長
中西健二	大分県生活環境部環境保全課長
清水 浩	大阪市環境局環境管理部土壌水質担当課長
植木啓次	神戸市環境局環境保全部水・土壌環境担当課長
中尾謙一	枚方市環境部環境指導課長



東山雅彦	和歌山市市民環境局環境部環境政策課長
高木繁行	山口県漁業協同組合総務指導部長
杉 義晴	愛媛県漁業協同組合連合会常務理事兼漁政部長
上田康二	(一財) 広島県環境保健協会地域活動支援センター長
西村睦美	(公社) 山口県快適環境づくり連合会事務局長

(2) 編集委員 (10名)

石川拓哉	環境省水・大気環境局水環境課閉鎖性海域対策室室長補佐
篠原 靖	関西電力株式会社火力事業本部 火力運営部門環境管理グループ チーフマネジャー
正賀 充	兵庫県農政環境部環境管理局水大気課長 (知事・市長会議事務局)
住田典子	(一財) 広島県環境保健協会地域支援課長
反田 實	兵庫県立農林水産技術総合センター水産技術センター技術参与
壺井明彦	香川県環境森林部環境管理課長
西田正憲	奈良県立大学名誉教授
藤原建紀	京都大学名誉教授
吉田 寿	(株) 神戸製鋼所本社環境防災部次長
鷺尾圭司	(国研) 水産研究・教育機構 理事 水産大学校代表

(3) 海文化委員 (10名)

池田道治	京都府環境部環境管理課長
正賀 充	兵庫県農政環境部環境管理局水大気課長
栖原俊樹	和歌山県環境生活部環境政策局環境管理課長
白髪輝夫	岡山県環境文化部環境管理課長
重野昭彦	広島県環境県民局環境保全課長
壺井明彦	香川県環境森林部環境管理課長
安藤公一	愛媛県県民環境部環境局環境政策課長
佐藤泰弘	兵庫県漁業協同組合連合会組織統括本部指導部統括
高木繁行	山口県漁業協同組合総務指導部長
上田康二	(一財) 広島県環境保健協会地域活動支援センター長